

ところが、いろいろな勉強を教えているうちに、伊策はたいへんなことに気がつきました。それは、そろばんの教え方についてです。

たとえば、12わる2の計算を、そろばんを使わないで紙に式を書いて計算するときには、かけ算の九九くぐを使って、二六、十二とすぐにとけます。ところが同じ問題をそろばんでするときには、このころの教え方では割り算の九九を使ってやらなければならぬので、二に一いち天てん作さくの五ご、二に進しんの一いち十じゅうと、九九を二回も使わなければとくことができません。さらに、この割り算の九九を覚えるのが、またたいへん苦勞します。自分が初めて兄にそろばんを習ったときのことを思い出しても、この割り算の九九を覚えるのに泣かされた経験けいけんがありました。

「自分は、この割り算九九を覚えているから、簡単にとくことができるけれども、これから覚えようとする子どもたちはどうだろう。紙に式を書いて計算するときのかけ算九九と、そろばんりょうばんで計算するときの割り算九九と、両方